

明日香村



- 水谷草木染 1
- 飛鳥の里 めんどや . . . 2
- 明日香村の石巡り . . . 3
- 農家民宿「古都里庵」 . 4

草木染とは

草木染めとは、植物の葉っぱ、茎、根っこなどの天然染料を使った染め方のことをいいます。今回は、自然に囲まれた明日香村にある水谷草木染において、古代の手法に近い染色方法を実際に体験しましたので、その魅力や感想を「奈の良」の読者の皆さんにぜひお伝えしたいと思います。

「草木染め体験教室」という旗が目印の水谷草木染。家屋の周りには色とりどりの美しい花が咲いています。草木染め体験ができる部屋には、模様や色がそれぞれ異なる、草木染めのハンカチやストールが飾ってあり、とても色鮮やかな空間でした。

古代の人々の知恵



はじめに、体験教室の先生である水谷道子先生から、草木染めの特徴や古代の人々の知恵にまつわる話をお聞きしました。草木染めによる染め物の色は落ちやすいという欠点がありますが、時間経過

により深みが増してくるそうです。また、同じ材料を使ったとしても、季節や気温で色合いに違いが出て、世界に一つだけの染め物が生まれるのも大きな魅力です。古代においては色が落ちても何回も繰り返して染めることができるように、一色で、均一な模様の染め物が多かったそうです。

草木染めというのは人々の暮らしの中で発展してきた技術です。例えば、昔の人は山に入るとき、漆かぶれ防止の効果のある栗の葉っぱを煮出して全身に浴びたり、出汁で染めたズボンをはくなどして、山に入ったそうです。そのような日常の知恵の積み重ねで、草木染めは発達してきました。水谷先生のお話を聞いて、古代の人々の知恵に感心しました。

昔から伝わる模様や技法



続いて、昔から伝わる模様や技法について、教えていただきました。村雲と呼ばれる模様は、生地を丸い棒に通して、しわを作った後で、上から強く締め、そして棒ごと染料に浸して染め上げる、村雲絞りという絞り染めの技法で作ります。染め上がりが雲の形になることから、このように呼ばれています。それ以外に、太陽、虹、波柄、竹柄、ミツウロコなどいろいろな模様があります。そういった模様の一つである亀甲模様は、古代の中国から日本に伝わって来たそうです。

古代から様々な模様があったことに驚きましたが、古代の人は、日常生活で美しい花などを目にして、「あんなにきれいな模様をどうすれば再現できるのか」と試行錯誤することにより、草木染めの技法はさらに発達していったそうです。

草木染体験

そして、いよいよ水谷先生のご指導の下で、草木染め作業を開始しました。私はベースとなる生地に、花模様入りのハンカチを選びました。模様は昔から伝わる模様であるミツウロコにしました。先生から生地の折り方を教えていただき、折った生地の上に板を挟んで、ゴムでしっかり固定しました。染色作業は、屋外で実施し、今回は9種の染液を用意してくださいました。染液は、時間が経てば経つほど、どんどん鮮度が悪くなっていくので、鮮度を保つために、当日作った染液しか使用せず、余った染液は全部捨てるのが草木染めの贅沢なところだと、水谷先生が笑いながら話してくださいました。染液は、時間が経てば経つほど、どんどん鮮度が悪くなっていくので、鮮度を保つために、当日作った染液しか使用せず、余った染液は全部捨てるのが草木染めの贅沢なところだと、水谷先生が笑いながら話してくださいました。



最初に、アルミホイルで染めない部分を包んで、金茶色に仕上がる玉ねぎの皮で煮出したお鍋に、折った生地を浸けて染め上げました。染めてからアルミホイルを外して、水の中でやさしく洗いました。「古代ではアルミホイルは使わないですよ」と水谷先生がおっしゃっていましたが、古代の人々がどのように工夫して染色をしていたかを想像すると楽しくなります。



次に、アカネの根っこから採れる深紅色を選びました。中国では、赤は縁起の良い色です。染色してから、また前回と同様に生地を洗いました。それから、アカネと相性が良い、スモモで作られた紫色を選びました。しっかり染め上がるように、水谷先生と協力して、生地の中まで染液を注ぎました。

最後に、水の中で生地を引っ張って洗い、ついに世界で唯一の私だけのハンカチが出来上がりました。生地を広げると、期待以上に良い色合いに染まっています、本当に感動しました。



おわりに

40年の歴史がある水谷草木染教室は、古来の技法を再現し、今もその技法を守り、伝え続けています。興味深い古代の話を聞きながら染色体験ができ、楽しい時間を過ごせました。皆さんも自分だけの仕上りの染め物を作りませんか。興味のある方は、ぜひ草木染め体験をしていただき、いい思い出を作りましょう。



- ・所在地：〒634-0143 奈良県高市郡明日香村立部4 4 8
- ・<https://mizutani-kusakizome.com/>



「飛鳥の里 めんどや」は、創業100年以上の老舗で、明日香村や奈良県に伝わる郷土料理がいただけるお店です。今回は、奈良の歴史だけでなく、郷土料理も奈良の良さの一つであることを、「奈の良」の読者に伝えたいと思います。

最初に、五代目代表の北海希美子さんにお店のことや明日香村の魅力について、インタビューをさせていただきました。

1. こちらのお店は始めてから何年目ですか。また、お店はずっと明日香村にあったのですか。

正確な年数は分かりませんが、創業から100年は優に超えています。店は何回カリフォルム工事を行いました。店の場所は創業以来、ずっとこの場所にあります。明日香村で一番古い店だと思います。



2. 長い歴史のある老舗として、お店を続けられた秘訣は何ですか。

店のメニューを時代に応じて、変化させてきました。例えば明日香村にファミリーレストランがなかった頃には、ハンバーグなどを提供していた時期もありました。それから、地元の人向けのランチ、お弁当などもやっています。飛鳥鍋も季節によって、鍋に入れる野菜を変えており、化学調味料を使わないことがポリシーで、自分が身体に良いと思ったものを提供しています。



3. 海外からの観光客は多いですか。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていますか。

コロナ前は、中国、韓国、フランスなどからの観光客がよく来られていました。コロナが流行している現在は、お客様が減って、売り上げが下がったのは事実ですが、店が潰れるほどではありませんでした。「めんどや」は、観光客だけではなく、地元の常連客や大阪などからの遠方のお客様など、様々なお客様に支えられており、幸い、コロナの大きな影響は受けなかったです。

4. 明日香村の良いところは何かと思われませんか。「奈の良」の読者に一番伝えたいことは何でしょうか。

明日香村には、高松塚古墳、石舞台古墳など日本の飛鳥時代の史跡が数多くありますが、明日香村の風景や空気など、自然の姿を感じられるところが明日香村の大きな魅力だと思います。それはストレスな体験だと思うので、ぜひ一度明日香村を訪れていただきたいです。



インタビューの後、飛鳥鍋のコース料理を頂きました。コース料理の内容は、飛鳥鍋、ごま豆腐、煮物、柿の葉ずし、自家製わらびもち、季節のフルーツです。その中でも、やはり驚いたのは、特製のだし汁に牛乳を加えて作られた、飛鳥鍋の白いスープです。カボチャ、ブロッコリー、豆腐、エノキ、シメジ、アスパラガス、小松菜、鶏肉などをお鍋に入れて煮込むと甘い香りが漂ってきました。その中で、私はエノキとアスパラガスが特に気に入りました。食材の本来の味とスープの味が合わさり、とても美味しかったです。ごま豆腐は、香ばしいごまの風味に、モチモチ感と白ごまのプチプチする食感がとても印象に残りました。



私は、辛い火鍋は大好きでよく食べるのですが、辛くないお鍋は今回初めて食べました。飛鳥鍋は味付けがしつこくなく、さっぱりしていて、とても食べやすかったです。奈良の郷土料理に興味を持っている方々には「めんどや」の飛鳥鍋をぜひともお勧めしたいです。長い歴史のある明日香村で、美しい自然の風景を楽しみながら、ぜひ飛鳥鍋を一度食べてみませんか。



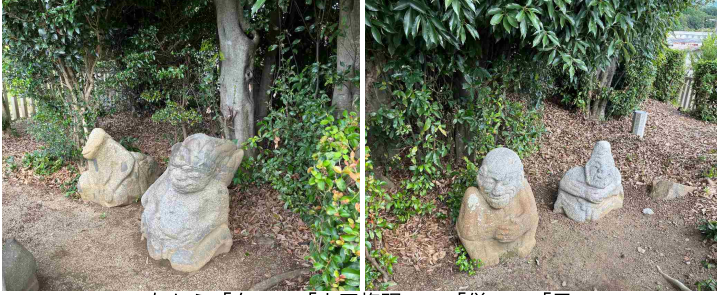
・所在地：〒634-0111 奈良県 高市郡明日香村 岡40
 ・https://www.instagram.com/mendoya_2055/



明日香村の各地には、それぞれ伝説や物語のある石造物があります。今回は、見るだけでは分からない明日香村の石造物の魅力を紹介します。

猿石

「猿石」という名前を聞いたら、猿の姿の石を思い浮かべませんか。でも実は、5体の猿石の中で、猿の姿をしているのは1体だけです。猿の姿をした1体は、明日香村の隣の高取町にあり、残りの4体は明日香村にあります。今回は、近鉄飛鳥駅から徒歩約5分の吉備姫王墓前きびひめのみこのはかにある、4体の猿石を紹介したいと思います。



左から「女」、「山王権現」、「僧」、「男」

猿石は、7世紀、飛鳥時代の斉明朝の頃に制作されたと言われており、高さ1メートル程度の石像です。猿の顔に似ていることから猿石と呼ばれていますが、実は猿ではなく、渡来人を模したものではないかと言われてしています。

猿石は、左から「女」、「山王権現さんのおんげん」、「僧」、「男」と呼ばれており、各猿石の特徴からつけられた愛称です。そのうちの「女」、「山王権現」、「男」の3体は後ろに天邪鬼あまのじやくの様な顔があるそうです。現在は、柵の中にあるので後姿は見えませんが、飛鳥資料館にあるレプリカでは、後姿も確認できます。

実際に現地に行って猿石を見てみると、どうしてこのような石造物が作られたのかと、想像が膨らみました。このように、古代に思いを馳せながら猿石を眺めることも、面白い見方の1つでしょう。

鬼の雪隠・鬼の俎

「鬼の雪隠」と「鬼の俎」は、名前のとおり、鬼に関する伝説を持っている石造物です。



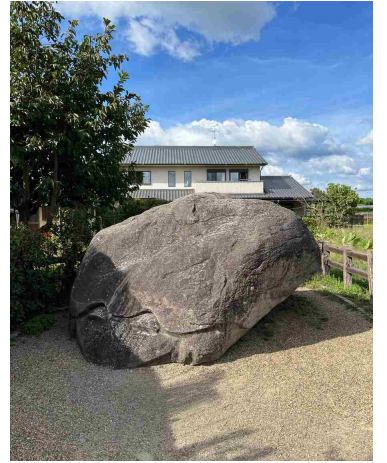
鬼の雪隠

鬼の俎

この石造物の名前の由来は地元の伝説です。この近くに住んでいた鬼が霧を発生させ、迷った旅人を「鬼の俎」の上で料理し、おなが一杯になったところで「鬼の雪隠」で用を足したといわれています。夜遅くにこの近くを通る方は、気をつけた方がいいですよ。

亀石

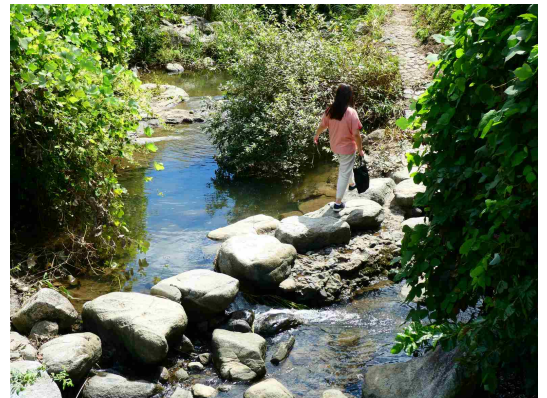
亀石は、明日香村を代表する石造物の一つです。亀石と呼ばれている理由は、写真の通り、亀に似ているからです。そのユーモラスな顔つきから明日香村観光のシンボルにもなっているそうです。亀石はいつ、何の目的で作られたのかが明らかではないですが、かつて明日香村にあった川原寺の境界を示す標石ではないかという説があります。



実は、亀石の可愛い外見からは想像できない怖い伝説があります。昔、大和が湖であった頃、湖の対岸の当麻あいまの地と、川原の地との間で喧嘩が起きました。長い喧嘩の末、湖の水を当麻にとられてしまいました。その結果、湖に住んでいたたくさんの亀が死んでしまったのです。それで亀を哀れに思った村の人々は、亀の形を石に刻んで供養したそうです。今、亀石は南西を向いていますが、最初は北を向いていたと言われてしています。そして、その次に東を向いて、現在の南西を向いているというお話がありますが、その次に、もし西を向き、当麻を睨みつけた時は、大和盆地（現在の奈良盆地）は一面泥の海と化すという怖い伝説が伝わっています。

飛鳥川飛び石

「飛鳥川飛び石」は、万葉集にも詠まれた飛鳥川の「石橋」です。この石橋は、万葉歌人には、この橋を渡ることが逢引きを意味したり、恋人との距離感を示す例えに用いられたり、たくさんの歌に登場しています。



飛鳥川飛び石（下流川）

明日香川 明日も渡らむ石橋いはし 遠き心は思ほえぬかも

意味：明日香川の名のごとく明日も渡っていこう。
石橋のように間遠な心は考えられないことよ。

このように、特に意味のない普通の石だと見えるものの、裏に隠されたストーリーを探してみるのも、明日香村の石巡りの楽しさではないでしょうか。

明日香村には、いくつかの農家民宿がありますが、今回は近鉄飛鳥駅から徒歩で約7分の農家民宿「古都里庵」を紹介します。

古都里庵は約120年前に建てられた家を、昔の雰囲気はそのままに、生活設備は使いやすくリノベーションした農家民宿です。日本の古民家を実際に見たことのない私にとって、昔ながらの日本が感じられる古都里庵への訪問は、とても楽しい時間でした。今回の取材では、庵主の小川勲さんに古都里庵を紹介していただきました。

リビング

まず、リビングに案内してもらいました。横に大きいガラスの引き戸があってとても解放感が感じられる所でした。その引き戸からは、古都里庵自慢の庭が見えました。部屋からその庭を眺めるだけでも、癒されるような気がしました。



インタビューを始めようすると、庵主の奥さんお手製の栗の渋皮煮を出していただきました。この渋皮煮は、古都里庵で採れた栗から作られたものだそうです。その栗を味わいながら、古都里庵についての話を色々聞かせていただきました。

庭

この美しい庭が、庵主一番のお気に入りとのことでした。庭には、錦鯉が泳いでいる池と様々な種類の木があり、庭の奥の方に入ると樹齢100年程の立派な桜の木がありました。



庵主曰く、桜のシーズンと紅葉のシーズンが一番綺麗で、その時期には予約が殺到するそうです。庵主お気に入りのこの庭の楽しみ方は、縁側に座って景色を眺めることだそうです。縁側に座ってお茶を飲みながら庭を眺めたり、雨の日には雨が降っている風景を感じたりすることが、庵主のお勧めの楽しみ方です。

和室

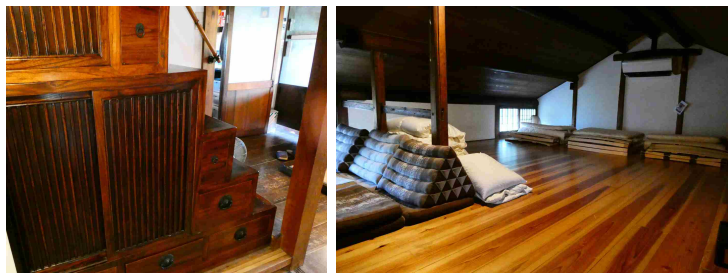


庭を楽しんだ後に案内された和室は、昭和の雰囲気を感じられる部屋でした。

庵主によると、この和室は、特に家族連れのお客さんに喜ばれるそうです。京都の骨董市や他の古民家から、家具や小物を集めたりして完成した、ノスタルジックな雰囲気のお部屋です。日本の方には懐かしさを感じる良い思い出に、海外の方には古き良き日本を体験できる、良い文化体験になるのではないかと感じました。

階段・屋根裏部屋

2階へ上がろうとすると、階段下が^{たんす}箆笥になっている、見たことのない階段が目に入りました。庵主によると、この階段箆笥は100年ほど前のもので、京都の骨董市で手に入れたものだそうです。



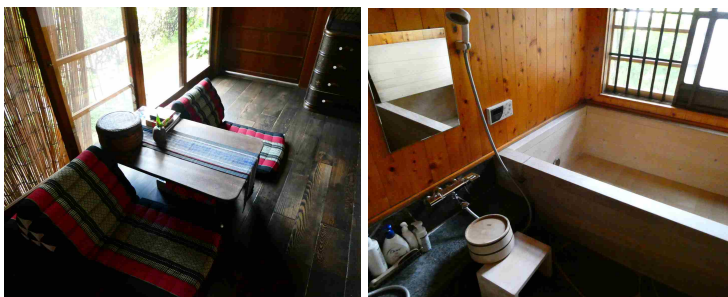
2階への階段

趣のある階段を登って2階へ上がると、子供も大人も喜びそうな屋根裏部屋がありました。元々は物置に使われた所を改装して、屋根裏部屋を作られたそうです。寝る前にみんなで屋根裏部屋に集まって、話しながら眠ることも良い思い出になりそうですね。

おわりに

庵主夫妻がこの仕事を続けているのは、お客さんが帰られる時に、「よかった」と声をかけてもらえることが嬉しいからだそうです。また、お客さんがノートに一言を書いてくれるのも楽しみなので、いい仕事をさせてもらって、いいお客さんに恵まれて、大変嬉しいとおっしゃっていました。

庵主が思う明日香村の魅力を聞くと、「何にもないところ」という予想外の答えが返って来ました。明日香村の豊かな自然や長い歴史などが明日香村の魅力だと思っていた私はびっくりしました。でも、どこへ行っても人が多い京都などと比べると、明日香は人も少ないので、何にもないけれど、のんびりできるというお話を聞いて、納得しました。



最後に、庵主からいただいた皆さんへの一言をお伝えします。

「飛鳥は、日本のまほろば、日本の始まりです。ぜひ明日香村へ来てください。」

・所在地：〒634-0137 奈良県高市郡明日香村真弓1473
・<https://kotorian.jp/>



記事：李 映婁

編集後記

「奈の良」とは？

「奈の良」は、外国人の目線で見たい奈良県の魅力を県民の方々や外国から来られたお客様に紹介するため、私たち奈良県庁国際課の国際交流員が奈良県で見つけた魅力や面白いことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。

エリアマップ



熊 亜芳（写真左）



奈良は中国とゆかりの深いところ。奈良を訪れると、歴史に触れることができ、郷土料理も楽しむことができます。今回は明日香村にある「水谷草木染」を取材しました。植物を使って、ハンカチを鮮やかに染め上げられることに感動しました。さらに、「飛鳥の里 めんどや」という郷土料理の老舗に行ってきました。

明日香村には良いところが多いので、皆さんもぜひ足を運んで、明日香村の魅力を感じてください。

李 映羨（写真右）



今回取材した明日香村には長い歴史があり、古代の石造物などもたくさん残っている所です。今回紹介した石造物以外にもたくさんの遺跡が保存されています。それに加え、豊かな自然もあって、とても癒される地域だと感じました。

色々な体験ができる明日香村へぜひ行ってみたいかがでしょうか？

Special Thanks

今回の取材にあたり御協力いただいた水谷草木染、飛鳥の里 めんどや、農家民宿「古都里庵」、明日香村役場、宮内庁書陵部畝傍陵墓監区事務所の方々にお礼申し上げます。

『奈の良』 *Na no Ra*

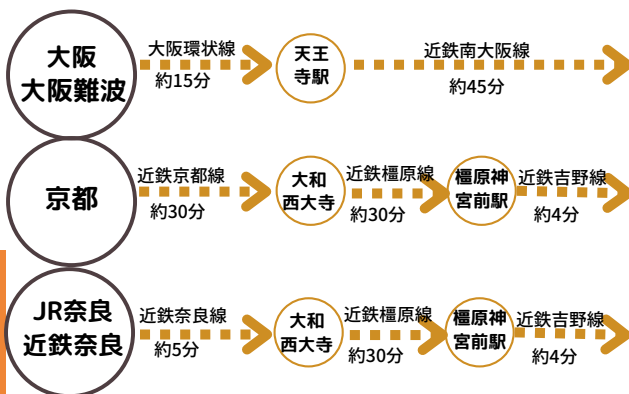
発行元：奈良県知事公室国際課
発行：令和4年12月
本誌に関するご意見、ご質問等は
こちらへご連絡ください。

〒630-8501
奈良市登大路町30 奈良県知事公室国際課
TEL: 0742-27-8477
FAX: 0742-22-1260



アクセス

電車を利用する場合



明日香村

車を利用する場合

大阪から：約1時間10分
京都から：約1時間30分
奈良から：約1時間
} 明日香村まで